

## 海外安全対策情報（2020年7月～9月）

### 1 社会・治安情勢

#### (1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、西部を中心に発生しており、引き続き警戒が必要である。今期のテロ発生件数は前期（2020年4月～6月期）と同数（38件）、死者は19人減（61名→42名）、負傷者は78人増（65名→143名）であった。（当地シンクタンク「パキスタン平和研究所（PIPS）」調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数による自爆、襲撃及び即製爆破装置（IED）による攻撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する勢力もある。

イ 7月7日、テロ対策局（CTD）は、パンジャブ州 Daska 郡 Ranjhai 村において、インテリジェンス情報に基づいた掃討作戦を行い、ISIL 所属のテロリスト3人を逮捕したと明らかにした。同人らは、ISIL のために資金を集め、ISIL に財政援助を行っていたと見られ、爆発物が押収された。

7月21日、CTDは、パンジャブ州グジュランワーラーの幹線道路付近において捜査を行い、同市でテロ行為を計画していた禁止団体（団体名非公表）のテロリスト2人を逮捕したと明らかにした。同人らから爆発物が押収された。

7月31日、軍統合情報局（ISI）とCTDは合同で、パンジャブ州ラージャンプール地区において、インテリジェンス情報に基づいた掃討作戦を実行し、バロチスタン共和軍（BRA）所属テロリスト5人を殺害し、3人はオートバイで逃走した。同人らの隠れ家からは、IED、爆発物、武器及び弾薬等が押収された。同人らは、2019年11月10日の法執行機関に対する攻撃に関与した疑いが持たれている。

8月18日、CTDは、パンジャブ州ラホールにおいて、インテリジェンス情報に基づいた作戦で、パキスタン・タリバーン運動（TTP）分派のヒズブル・アハラール（HuA。先般、TTPへの再合流が発表された。）所属のテロリスト1人を逮捕していたことを明らかにした。同人は、ラホールの法執行機関事務所を狙ったテロを計画しており、所持品から自爆ジャケット、手りゅう弾及び爆発物が押収された。

9月11日、CTDは、パンジャブ州バハーワルナガルで関係機関の人物を襲撃する計画を立てているとの確度の高い情報を得て立ち入り捜査を行い、ISIL所属のテロリスト2人を逮捕し、手りゅう弾2個と短機関銃1丁を押収した。

9月13日、軍統合広報局（ISPR）は、治安部隊が南北ワジリスターの境界付近を捜査中、テロ勢力との間で銃撃戦を展開し、エヘサヌッラー司令官（通称エヘサン・サンライ）を含む4人を殺害したと発表した。ISPRは、同司令官の殺害は治安部隊にとって「大きな突破口」となるとした。

ウ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然として都市部においてもテロの脅威は存在している。

## (2) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にある。

9月、フランスのシャルリー・エブドによるムハンマド風刺画再掲を受け、パキスタン国内各地でデモが繰り返された。今回の再掲載をきっかけとして、イスラム教徒間で西洋的価値観に対する反発の再燃が懸念される。

9月17日、スンニ派のグループがシーア派への政府の対応などに不満を抱き抗議行動をイスラマバードで開催し、数百人の群衆が集まったが、大きな混乱は生じなかった。

9月24日、インド西部ラジャスタン州で11人のパキスタン人ヒンドゥー教徒が殺害されたことに対して、インド政府に抗議するため、イスラマバードにおいて大規模な官製デモが開催され、3,000人を超える群衆が集まった。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### (1) 邦人被害事案

なし

### (2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

7月3日、KP州バジョール部族郡 Salarzai 郡 Dandoki 地域において、複数名の狙撃犯らが住民に対して発砲し、民間人1人が死亡した。犯人は現場から逃走した。

7月29日、KP州チャールサッタ Tarlandi 地域において、親族間の土地

争いの仲裁に向かった警察官2人が、当事者親子に銃撃され死亡した。

8月1日、在パキスタン・フランス大使館の外交官が、イスラマバードのF-7/2にある自宅前で、オートバイに乗った犯人から銃を突きつけられて脅される事件が発生した。犯人は携帯電話機と金品を強取しようとしたがかなわず逃走し、その後逮捕された。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

### (3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。

2020年1月、イスラマバード市内において、雇用主の留守中にドライバーが700万ルピー相当の金品を盗み、その事実を隠ぺいするため留守宅を放火するという事件も発生した。

9月2日、ラーワルピンディーにおいて、家政婦が雇用主の留守中に金の装飾品などを窃取する事件も発生した。また、当地警察は、ガス、電気会社の職員を装った強盗が、家主の不在間に機器の点検目的を装い家屋に侵入し、金品を窃取する事件が増加傾向にあるとの注意喚起を出しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

### (4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

### (5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、被害実態は正確に把握できない。

### (6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局(FIA)サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。FIAでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

### (7) 物乞いを職業とする者

イスラマバード市内では、ギャングの支配下にある物乞いを職業とする者

が問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。本年 10, 998人（9月4日現在）の物乞いを職業とする者が逮捕された。

(8) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2019年10月から2020年9月までのテロ事件発生状況

10月	10件、死者	10名、負傷者	19名
11月	17件、死者	27名、負傷者	38名
12月	14件、死者	16名、負傷者	24名
2020年			
1月	21件、死者	33名、負傷者	60名
2月	10件、死者	20名、負傷者	35名
3月	10件、死者	4名、負傷者	24名
4月	8件、死者	10名、負傷者	13名
5月	14件、死者	30名、負傷者	10名
6月	15件、死者	20名、負傷者	41名
7月	16件、死者	17名、負傷者	45名
8月	12件、死者	14名、負傷者	86名
9月	10件、死者	11名、負傷者	12名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

\*以下、パキスタンを「パ」と表示

- 7月2日、KP州バジョール部族郡モーマンドにおいて、何者かが仕掛けた爆発物が爆発し、警備員1人が死亡した。犯行声明は出ていない。
- 7月3日、KP州南ワジリスタン部族郡Merna地域において、民間人が乗った車両が銃撃犯らに待ち伏せ攻撃を受け、部族の長老を含む4人が死亡、1人が負傷した。犯人らは現場から逃走した。
- 7月3日、KP州バジョール部族郡Salarzai郡Dandoki地域において、複数名の狙撃犯らが住民に対して発砲し、民間人1人が死亡した。犯人らは現場から逃走した。
- 7月4日、パンジャーブ州ミヤーンワーリーにおいて、何者かが民家に押し入り、住民に対して無差別に発砲し、民間人1人が死亡した。
- 7月7日、KP州バジョール部族郡Sadiqabad1において、何者かが発射したロケット砲により、PTI下院議員自宅が一部損壊したが、負傷者はいなかった。犯行声明は出ていない。
- 7月8日、KP州スワビにおいて、掃討作戦を実行した警察と犯罪宣告人

(proclaimed offender) らの間で銃撃戦が発生した。警察官1人が死亡、2人が重傷を負い、犯罪宣告人1人も死亡した。

- 7月10日、KP州モーマンド部族郡 Ghanam Shah Munda において、何者が夜間定期巡回中の警察官らを銃撃し、警察官1人が死亡、1人が負傷した。また、犯人らは、銃撃現場近くのガソリンスタンドから現金及び携帯機器を窃取した上、警察官らに手りゅう弾を投げつけ現場から逃走した。
- 7月11日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ付近において、歩行者がオートバイに乗った武装班に銃撃されて死亡した。
- 7月11日、KP州北ワジリスタン部族郡ダッターヘールの丘陵地において、5日前から行方不明になっていた男性が、全身に銃撃を受けた遺体となって発見された。
- 7月12日、KP州北ワジリスタン部族郡ミランシャーから南西8キロメートルに位置する Vezhda Sar において、「パ」治安部隊がテロリストの隠れ家に対して掃討作戦を実行したところ、銃撃戦が発生し、テロリスト全4人及び「パ」兵士4人が死亡、3人が負傷した。
- 7月15日、KP州スワートにおいて、ミリタントらが辺境警備隊 (FC) 駐留地を急襲し、FC兵士1人が死亡した。ミリタントらは現場から逃走した。
- 7月15日、KP州バジョール部族郡 Kaga に対して、アフガニスタンから迫撃砲による攻撃が行われ、民間人1人が負傷した。
- 7月17日、KP州バジョール部族郡において、アフガニスタンを拠点とするテロリストらが越境攻撃をしかけ、「パ」民間人3人が死亡、7人が負傷し、「パ」兵士2人も負傷した。
- 7月21日、イスラマバード市内において、政府に批判的な「パ」人著名ジャーナリストが誘拐されたが、同日夜、解放され帰宅した。
- 7月23日、KP州クラム部族郡の市場において、野菜などを積載したカートに仕掛けられた即製爆破装置 (IED) が爆発し、少なくとも17人が負傷した。
- 7月23日、KP州ワジリスタン部族郡ワナ付近において、帰宅中だった「パ」軍司令官の車両に何者が発砲し、同司令官は負傷した。犯人は自身の車両を残し、現場から逃走した。犯行声明は発出されていない。
- 7月23日、KP州ペシャワール郊外において、何者からの銃撃により、モーターバイクに乗って移動中であったFC1人を含む3人が死亡した。犯人らは現場から逃走した。
- 7月24日、KP州ラッキー・マルワトの Nasirkhel 村において、掃討作戦を実行した警察と犯罪宣告人らの間で銃撃戦が発生し、犯罪宣告人1人が死亡した。また、犯罪宣告人らが投げつけた手りゅう弾により、警察官1人が負傷した。
- 7月24日、KP州北ワジリスタン部族郡において、同州ミランシャーか

らバンヌーに向かっていた治安部隊の車両に対して何者かが銃撃し、「パ」兵士1人が死亡、3人が負傷した。

- 7月25日、KP州クラム部族郡 Bazikhel において、何者からの銃撃により、民間人3人が死亡、1人が負傷した。地元住民らは、3人の遺体で道路をふさいで交通を止め、同事件に抗議した。暴徒は、付近を通りかかった公共交通機関の車両から乗客複数人を降車させ、FC検問所に避難した1人を殺害した。
- 7月28日、ギルギット・バルティスタン（GB）ディアミール地区において、テロ対策局（CTD）が犯罪宣告人の隠れ家に踏み込んだところ、銃撃戦が発生し、警察官5人及び民間人2人が死亡し、警察官4人が負傷した。同銃撃戦でミリタント2人も死亡し、同人らからは武器や爆発物が押収された。
- 7月29日、KP州チャールサダにおいて、親族間の土地争いの仲裁に向かった警察官2人が、片当事者に銃撃され死亡した。
- 7月29日、KP州クラム部族郡 Mali Khel において、FC隊員が捜査に抗議する民間人に対して発砲し、民間人2人が死亡、4人が負傷した。
- 7月29日、KP州バジョール部族郡において、テロリストがアフガニスタン側から「パ」治安部隊の駐屯地を狙った越境攻撃を行い、「パ」兵士1人が死亡した。
- 7月31日、パンジャーブ州ラージャンプールにおいて、軍統合情報局（ISI）及びパンジャーブ州テロ対策局（CTD）が合同で掃討作戦を実行し、2019年11月10日の法執行機関に対する攻撃に関与した疑いのあったバロチスタン共和軍（BRA）所属テロリスト5人を殺害したが、3人はオートバイで逃走した。同人らの隠れ家からは、IED、爆発物、武器及び弾薬等が押収された。
- 8月4日、KP州バジョール部族郡において、何者かがジャマーテ・イスラミ（JI）傘下の青年団に所属する活動家1人を射殺した。警察は犯行に使用された車両を押収した。犯行声明は出ていない。
- 8月5日、アフガニスタンを拠点とするテロリストらが、KP州ディールの「パ」哨戒所に対して、迫撃砲や重火器による越境攻撃を行った。同日夜には、アフガニスタン国境警察検問所も「パ」軍駐屯所に対する攻撃を開始した。これらの攻撃により、「パ」FC隊員1人が死亡し、2人が重傷を負った。
- 8月8日、KP州北ワジリスタン部族郡において、覆面をかぶった犯人らに銃撃され、民間人2人が死亡した。犯人らは現場から逃走した。
- 8月10日、KP州ローワー・ディールに所在する警察検問所に対し、ミリタントらがロケット砲3発を打ち込む攻撃を行い、警察官3人が軽傷を負った。警察官らは報復攻撃を行い、銃撃戦が発生した。犯人らは逃走したが、その後の捜索により、容疑者16人が拘束された。

- 8月12日、KP州ペシャワールにおいて、何者かがアフマディ・コミュニティ所属の民間人を射殺した。同コミュニティは、ヘイトクライムとの見解を示した。
- 8月13日、KP州北ワジリスタン部族郡 Razmak Mohajir Bazar 検問所付近において、何者かによって仕掛けられた爆発物が爆発し、治安部隊要員2人が負傷した。犯行声明は出されていない。
- 8月15日、KP州モーマンド部族郡において、何者かが部族の長老らが乗った車両を奇襲し、長老の息子1人が死亡し、同行者2人が負傷した。
- 8月18日、パンジャブ州CTDは、ラホールでの作戦で、パキスタン・タリバーン運動(TTP)分派のHuA所属テロリスト1人を逮捕したことを発表した。同人は、ラホールの法執行機関事務所を狙ったテロを計画しており、所持品から自爆ジャケット、手りゅう弾及び爆発物が押収された。
- 8月27日、パンジャブ州ワーにおいて、何者かが民間人1人を射殺した。また、同地域において勤務中だった警備員1人も何者かに銃撃され負傷した。犯人は現場から逃走した。
- 8月28日、KP州南ワジリスタン部族郡において、地雷2発が爆発し、子供4人が負傷した。
- 8月30日、KP州南ワジリスタン部族郡において、テロリストが巡回中の「パ」軍部隊を銃撃し、「パ」兵士3人が死亡、4人が銃弾により負傷した。
- 8月31日、KP州ローワー・ディールにおいて、定期巡回中だった警察車両がIEDによって攻撃され、警察官3人が負傷した。
- 9月3日、KP州北ワジリスタン部族郡の Shaga-Nishpa 道路において、テロリストらが道路脇に仕掛けたIEDが爆発し、道路工事チームの警護に当たっていた「パ」兵士3人が死亡、4人が負傷した。
- 9月3日、トルハム国境において、アフガニスタン側から砲弾11発が打ち込まれたが、「パ」側に被害はでなかった。
- 9月5日、KP州南ワジリスタン部族郡において、TTP所属テロリストらが治安部隊車両を攻撃し、両者間で銃撃戦が発生した。テロリスト3人が死亡した。
- 9月5日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ付近において、巡回中の軍車両が攻撃を受け、兵士1人が死亡、3人が負傷した。
- 9月6日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリにおいて、ミリタントらが治安部隊の車両に対して銃撃し、「パ」軍2人が負傷した。
- 9月11日、パンジャブ州CTDは、同州バハーワルナガルで立ち入り捜査を行い、ISIL構成員2人を逮捕し、手りゅう弾2個と短機関銃1丁を押収した。同捜査は、関係機関の人物を襲撃する計画を立てているとの確度の高い情報を元に実行された。

- 9月12日、北ワジリスタン部族郡ダッターヘールで巡回警備中の軍用車に対する遠隔操作爆弾攻撃が発生し、兵士1人が死亡した。
- 9月13日、治安部隊が南北ワジリスターの境界線付近を捜査中、テロ勢力との間で銃撃戦を展開し、エヘサヌッラー司令官を含む4人を殺害した。
- 9月27日、南ワジリスタン部族郡シャカイー地区で治安部隊とテロリスト間の交戦により、兵士1人が死亡した。

## 5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

9月8日、イスラマバードの自宅から拉致されたとみられていた、証券取引委員会（SECP）幹部が解放された。その他、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

## 6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

7月6日、カラチに所在する日系企業事務所に対して、複数名が施錠を破り建物内に侵入し、常駐していた警備員3人のうち2人に軽傷を負わせ、金庫から現金を強取する強盗致傷事件が発生した。事件発生時、日本人駐在員は不在であった。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地

域への入域は控えることが望ましい。

(以上)